

令和6年度 学校評価(最終評価)

川北町立橋小中学校

(最終)

	評価項目と具体的取組	担当部署	評価指標	達成度判断基準	備考	評価	取組状況	改善に向けて
I 組織的な 学校運営	【学校教育ビジョンの実現化】 学校教育運営委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画し、学校教育ビジョンの実現を目指す。	総務部	【成果指標】 学校教育ビジョンを意識しながら、組織的に主体的に自分の役割、取組を実行し、子どもたちを目指す姿に近づけることができる。	組織的・主体的に学校運営に参画する中で、目指す児童の姿に近づいていると回答する職員の割合が A 80%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月12月 教員アンケート	B	肯定的回答100% あてはまる30%、どちらかといえばあてはまる70%のため、成果指標B行事などを積極的に活用し、職員全員で取り組むことはできたと感じる。児童と共有した「力を合わせる」「ばっちり学ぶ」など目標達成できたと感じる。あとは、児童に主体性をもてるという高い目標がなかなか達成できないため、厳しい自己評価をしたのではないかと感じる。	今年度の仕上げとして、児童を目指す姿に近づけられるよう3学期の送る会などの行事を充実させていく。 学校全体で取り組むという意識を大切にするために、今年度のうちに来年度の学校カリキュラムマネジメントに着手し、行事の改善等今年度できそうなことは、今年度のうちに取り組んでおく。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にしている。	総務部	【満足度指標】 職員は「ワークライフバランス」を大切にし、充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切にし、充実感を持って教育に当たっている。と回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	肯定的回答100% 満足度指標A 職員同士が相談・声かけ・協力・見守りなどに普段から取り組みながら、行事を遂行しただけでなく、行事の片付け、準備などまで協力して取り組んだ結果と感じる。 お互いの役割を把握し、協力できる体制が取れているため、仕事だけでなくプライベートも大事にできる職場になっている。	さらに、職務遂行しやすい環境になるためには、見通しをもった早めの対応について、まだ取り組む余地はある。それそれぞれの職務の進行状況の把握にも努めたい。 また、来年度に向けて、職員の構成が変わっても橋小の協働体制の良さを維持できるよう、それぞれの分掌の引き継ぎを充実させ、協力体制の確立についての取組を継続させる。
II 確かな学力の育成	【学力向上】 基礎学力向上計画・学力向上プランの共通実践をもとに、ばっちりタイムの計画的な取組を行い、基礎的基本的学力の向上を図る。	教務部	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が向上している。	全学年においてばっちり算数と漢字の合計点(低:180点以上、中:170点以上、高:160点以上)であった合格者の割合が100%の学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	7月12月2月 ばっちり算数・漢字の合格者の割合	B	合格者の割合が100%であった学年が5つの学年 今年度は、算数と漢字の合計点を合格基準において実施したことで、ばっちり算数とばっちり漢字を関連付けて実施する意識を教職員だけでなく児童も持つことができた。また、1回で合格点に達することができた児童の割合は86%であり、その後、児童の実態に合わせて全員が達成できるようにとの学年も取り組み、実施することができた。	算数と漢字の取り組みについて基礎基本を定着させる意識をもって教職員が取り組めるよう次年度もばっちりタイムの取り組みの計画的な提案をするとともに、児童の実態を細かく把握し、継続的に基礎基本の定着を図っていく必要がある。また、取組をしていく中で、児童ができるようになってきたことが増えたという実感につながっていく働きかけも同時に行っていくきたい。
	【自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成】 課題解決への目的意識や必要感を持たせられる学習課題づくりと、その解決に向け、子供が自己決定しながら学習活動を展開できる授業づくりを推進し、児童の主体性の育成を図る。	教育推進部	【満足度指標】 児童が学びに向けて進んで取り組んでいる。	自ら学びに向けて取組を進めていると答えた割合が、前回よりも向上している学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	5月7月12月 学びの研究アンケート	B	7月12月のアンケート結果を比較し前回よりも向上した学年:3学年(3～6学年で実施) 成果指数 B ほとんどの学年で、前回のアンケート結果よりポイントが向上していた。達成できなかった学年も否定的な回答が減っている。さらに、5月アンケートと比較すると、全学年のポイントの向上が見られた。年間を通した研究の取組から、主体的に課題に向かって取り組む児童が増えた。	つけたい力(身につけさせたい資質・能力)や的確な言語活動の設定とその日規書の明確化を意識した単元構想を今後も継続していく。児童の主体性をさらに高めるためには、児童に自分の学びや成長を実感させることが大切ではないかと考える。教師が明確にしたゴールやゴールを達成した姿を子どもたちと共有し、学びの自覚化をはかっていく必要がある。
	【読書活動の充実】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしかけの工夫を図る。	教務部(図書担当)	【成果指標】 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 (1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	おすすめの本の冊数 7月・2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊) 12月(1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊) 2月(1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	A	A(95.5%) 今年度教科書改訂に伴い、図書館司書におすすめの本を精選してもらった。図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をしている。今年度は図書館工事で利用できない期間を使って、図書委員会が学年のおすすめの本や読書文庫をたくさん読めるように企画を行った。例年、高学年の読書意欲が高められず、おすすめの本の達成状況が良くない傾向があるが、この企画を通して、おすすめの本を積極的に読み進めたり完了したりする高学年児童が増えた。	図書委員会の企画により、図書館利用や学年のおすすめの本を読む児童が増えたことで、引き続き図書委員会による企画は積極的に進めていきたい。読書空間に読書のすすめの本を紹介するカードを書き活動を行った。読んだ本を振り返る意味もあるが、来年度の児童へ読書意欲を高めるようにという意味も込めて行った活動なので、来年度活用して、読書意欲の低い児童が少しでも本を読むきっかけになればと思ふ。
III 豊かな人間性の育成	【みんなが安心できる楽しい学校づくり】 学校が安心でき、楽しいと感じられるよう、生徒指導の4つの視点を意識して授業を行ったり、児童の認め価値付けたりすることで、楽しい学校づくりに努めている。	生徒指導部	【満足度指標】 児童は、学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しい」と回答した児童が、 A 85%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまる 場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	肯定的回答94.7% 満足度評価 A 授業では、児童自身が意思決定できる場面や友達と関わりながら協働的に学ぶ場面を設定し、学校で学ぶ楽しさをより味わえるようにした。また、行事や活動では、教職員での連携を図り、児童が楽しめるように見取りや情報交換をした。	教師が児童に「委ねる」学びをしていくために、児童の思考を想定し、教材を準備することで、児童自身が達成感を持ち、楽しく学ぶことがつながっているように。児童からの提案を受け入れ、実現していくことで、児童のやる気を引き出し、より楽しい行事や活動につながっていくと考えられる。その際、教師からの視点も加え、より良く改善できているようにしたい。
	【道徳教育の推進】 児童が自分の思いや考えをもち、友達と伝え合いながら考えを深められるよう、道徳の時間を要として、構造的な板書や発問などの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	保健安全・体育部(道徳教育推進)	【満足度指標】 児童は、自分の思いや考えをもち、友達と伝え合うことができている。	「自分の思いや考えをもち、友達と伝え合うことができた」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 学校アンケート	B	肯定的回答87.2% 満足度評価 B 運動会や橋まつりなど行事が近づいた際に、関連づけて授業を行ったことにより、自分事として捉えることができ、思いや考えをもつて伝え合っている児童が増えた。また、心情メーターなどICTを活用することも話し合いのきっかけとなり、自分の思いや考えを伝えることに繋がっている。	教員に思いや考えを伝え合う活動についてのアンケートを取ったところ、教員の実感として、他の子と姿を比べることができ児童が少ないと感じているようである。その具体的な考えとして、多様な考えが出ない、自分の考えで満足しているなどである。次年度も適切な時期に行事と絡めた価値項目で授業を行い、自分の思いや考えをもつていくようにしていく。さらに、教員間で話し合いの方法の交流などをしていくと良い。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに向けて、児童会活動、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりを進んで取り組めたとふり返っている。	生徒指導部	【成果指標】 児童会活動、委員会活動、学級活動等において、力を含わせてよりよい学校・学級づくりを進んで取り組めたとふり返りが A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童会活動、委員会活動、学級活動等において、力を含わせてよりよい学校・学級づくりを進んで取り組めたとふり返りが A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月12月 児童のふり返り	A	肯定的回答84% 満足度評価A 児童の頑張りに対し、価値付けすることを継続的にに行った。また、めあて意識をもって活動に取り組めるよう、見守りや必要に応じた支援を行った。ふり返る際には、教師からの価値付けを行い、成長の実感をもつことができるようになった。	児童のふり返りから、力を含わせてよりよい学校・学級にできていると感じられ、学校全体の成長がうかがえる。児童が自ら考えたことに対して、めあてに対してどうだったかと、教師側から適宜ふり返らせることで、主体的に取り組めているかをより感じやすくなると思う。教師の意図的な関わりで、児童自らが進んで取り組めるようにしていくと良い。
IV 健やか 身体 の育成	【体力の向上】 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り1校1プラン」「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	保健安全・体育部	【成果指標】 ミニ体力テストにおいて、弱点だった種目の記録の平均が、5月の記録の平均を上回る。	各学年の男女別グループ(4～6年生)のうち、ミニ体力テストにおいて、弱点だった種目の記録の平均が、5月の記録の平均を上回ったグループが A 5グループ以上 B 4グループ C 3グループ D 2グループ未満	ミニ体力テスト	A	各学年の男女別グループ(4～6年生)のうち、ミニ体力テストにおいて、弱点だった種目の記録の平均が、5月の記録の平均を上回ったグループが、5グループ(4年男・4年女・5年男・6年男・6年女)であった。個人で見ると記録に伸びが見られる児童やわずかに記録が落ちている児童が見られたが、グループ全体で見ると伸びが見られた。また、上回れなかった1グループも、春の体力テストの結果を1ポイント下回っていただけで学校全体として、弱点であった柔軟性が高まってきている。	次年度の取り組みでも、個人の記録の伸びで見るとは、グループや学校全体の平均をもとに5月の結果や県の結果と比較していくことを続けていくと良い。また、前述のようなほかの結果と比較する成果指標ではなく、児童がどのくらい取り組むことができたか(持久走・休み時間の練習の際に、何周できたかなど)といった到達度指標によって評価することも検討していくと良い。
	【生活習慣の確立】 保健指導やげんきだよりによる啓発を通して、歯みがき習慣の確立を図る。	保健安全・体育部	【成果指標】 「げんきっこチェック」で、1日2回以上、歯みがきできた」と回答した児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	「げんきっこチェック」で、「1日2回以上、歯みがきできた」と回答した児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	6月12月 げんきっこチェック	C	1日2回以上はみがきができた児童76% 成果指標 C 1日の歯みがきが「1回の児童の回答内訳は、「夜だけだった」20.0%、「朝だけ来た」23.3%だった。朝の歯みがきが習慣化が課題である。なお、同アンケートにて、「学校保健委員会」で学習したことに基づいて歯みがきした」という設問では、93.8%の児童が「はい」と回答した。歯みがきの仕方については意識出来た児童が多かった。	児童の実態や、げんきっこチェックでの保護者の方の記述に基づき、今年度は正しい歯みがきの仕方の習得に重点を置いた。その結果、歯みがきの方法については行動改善が見られた。しかし、1日の歯みがき回数は課題が残った。これは、朝・夜2回の歯みがきが必要な理由を自分事として理解できていなかったことが原因と考えられる。今後、歯みがき指導を含めた生活習慣の保健指導では、健康課題を多角的に分析したうえで、重点的な指導内容を絞っていききたい。
V 家庭・地域との連携	【キャリア教育の推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる機会を各教科や総合的な学習の時間に設け、夢や目標をもち、意欲をもって学び続ける児童を育てる。	教務部	【満足度指標】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる機会の特設授業や各教科におけるGTとの授業、地域の方とのふれ合い、地域とよきを築く機会を通して学びに意欲を持っている。	市の先生との学習や地域についての学習・活動に積極をもって取り組んでいるという児童(3～6年)の割合が A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	肯定的回答93.2% (あてはまる57.1%どちらかといえばあてはまる36.1%) 各学年の各教科、総合的な学習の時間におけるGTの活用に加え、今年度はCSサポーターの方の授業支援も積極的に活用したこともあり、地域の方との活動の機会も多く持つことができた。また、2学期には、県立美術館の出前講座や人権集会でのゴッホ展鑑賞など、全校でプロの芸術に触れる機会も持つことができた。さらに、高学年においては味覚の一週間の事業に参加し、プロの料理人の方から食を通したキャリア教育を受けたことができ、貴重な経験を得た。	次年度も市の先生との授業や、CSサポーターの方の授業支援を地域の良さをを知る機会につなげ、積極的に実施していきたい。有効な活用とつながっていくよう、今年度の実施内容の直直しを図りながら計画を立てていくことが必要である。また、次年度も夢や目標を持つ機会につなげられるようなキャリア教育の視点を入れた特設授業の場(巡回公演など)を設けていきたい。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	生徒指導部	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んであいさつができている。	進んであいさつをしていると回答した児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	肯定的な回答91.7% 満足度評価A 登校時や下校時には、玄関であいさつをしたり、学期の始めや終わりには玄関で見送りをしたりした。また、児童育成委員主催のあいさつ運動を行い、保護者の方ともあいさつを行う機会があった。	あいさつの大切さを学校・学級で伝えることで、自分からあいさつする児童が多くなってきている。どんな人にも進んであいさつができるように、あいさつの価値を考えたり、あいさつできたことへの価値付けをしたりしていく。また、地域や保護者の方とも協力して、児童のあいさつについて考えていけると良い。